

「わたしの街の消防団」

西原中 一年二組

田中

祥太

ぼくは、街の消防団をか、ここいいなあと思っ
ています。

そのわけは、火災から、ぼくたちの暮らしを守
って、地域に密着した活動を行ってくださ
っていてからです。また、火事があると、
すぐに消防車で、火を消しに行かれるからで
す。

でも、火災があると大変だなあと思う事も
あります。そのわけは、火災があると、冬寒
い夜中でも出動したり、火災の後の後片づけ
をしたり、再度焼え上がらないように監視し
たりするからです。それと、ゆくえ不明者が
でた時に探したりするからです。特に大変だ
なあと思うことは、以前ゆくえ不明者が出た
時に山の捜さくをしたそうです。その時、発
見されたそうですが死亡されていたそうです。
そういう時は何とも言えない気持ちだろうと
思います。

今、消防団では各地域で人手不足がある。その
うで、なかなか入団する人が少ないと言う話を
聞きました。だから、消防団を守っていく
のも大変なんだなあと思います。

西原村は人口が少しづつ増えているという
ニュースを見ました。だから、もっともって
若い人が西原村に住めるような村作りを考え
て行かなければいけないと思います。

時々、消防車が火災でもないのに走っている
姿を見かけます。それは、いざ、出勤と言
う時にバツテリーがあがって出勤できなくな
るのを防ぐためです。だから、消防団の人達
は日ごろから色々な訓練や練習をして、人々
が安心して生活できるように見ま守っていて
くれるのなんだなあと思います。

火災は、人命にかかわる災害で、少しでも
消火活動がおくれれば、大変な結果となりま
す。それなので、消防団の人達の日ごろの訓
練は大切なものなんだなあと思います。

ぼくも大人になったら、消防団のような人

の役に立つ仕事や、ボランティア活動をや
てみたいと思います。